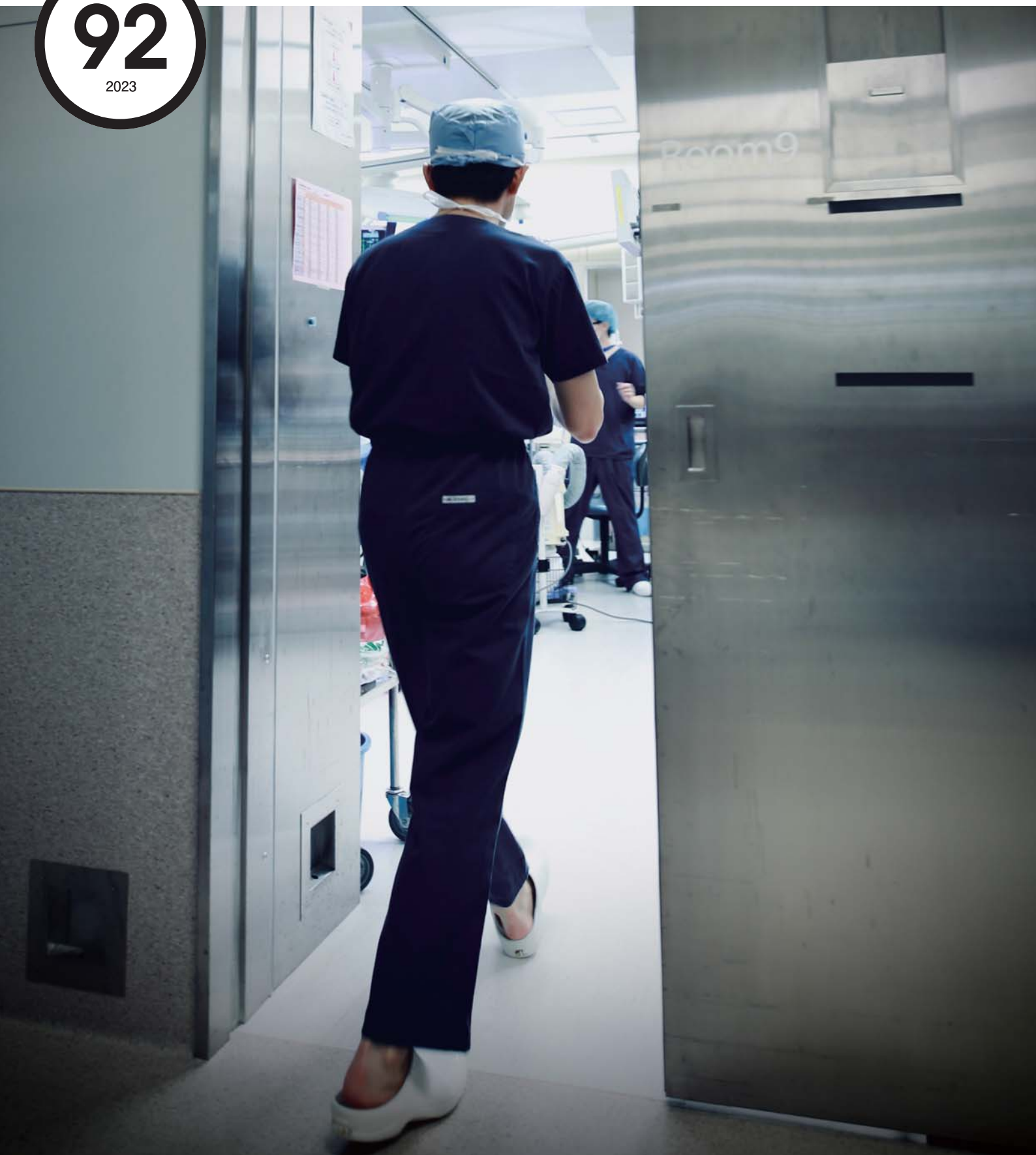


HANDS

Kokura Memorial Hospital

92

2023



いつもの暮らしに、いつものあなた

小倉記念病院

〒802-8555 北九州市小倉北区浅野3丁目2番1号 TEL.093-511-2000(代表) [小倉記念病院](#) [検索](#)

TEL.093-511-2062(医療連携課) FAX.0120-020-027(医療連携課) FAX.093-511-2032(救急室) 夜間・休日における救急患者の情報のみ

【表紙】

2022年度診療報酬改定でロボット支援下内視鏡手術の保険適用術式が追加され、その中で「肝切除術」も保険適用となりました。2020年に保険適用となったロボット支援下脾切除術に続き、難易度の高い手術に対するロボット支援手術が可能になりました。



ロボ肝 52症例数

(2023.4月末現在)

ロボット支援下による肝臓がん手術、通称「ロボ肝」が2023年4月末時点で九州最多の52症例となりました。2022年から国内でロボ肝が開始されており、日本でのロボット支援肝切除術のプロクターは5名しかおらず、そのなかの1名が外科 主任部長の藤川貴久です。

連続的手術操作と
煮沸凝固による止血を可能
にした生理食塩水の滴下

シザーズ先端を生理食塩水で滴下し常に湿潤することによって連続的に手術操作が行えます。また生食滴下によって切離部分を煮沸凝固できるため止血が可能となり、多関節機能を駆使して肝実質の薄層切離を進めることができます。

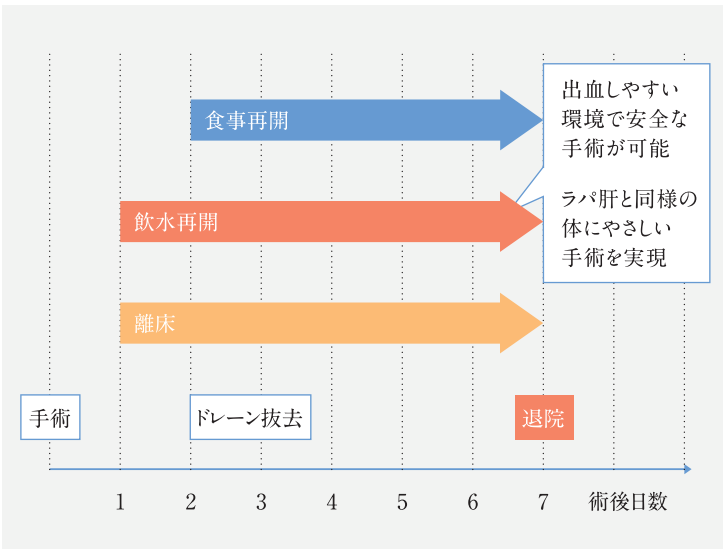


早期退院

73歳

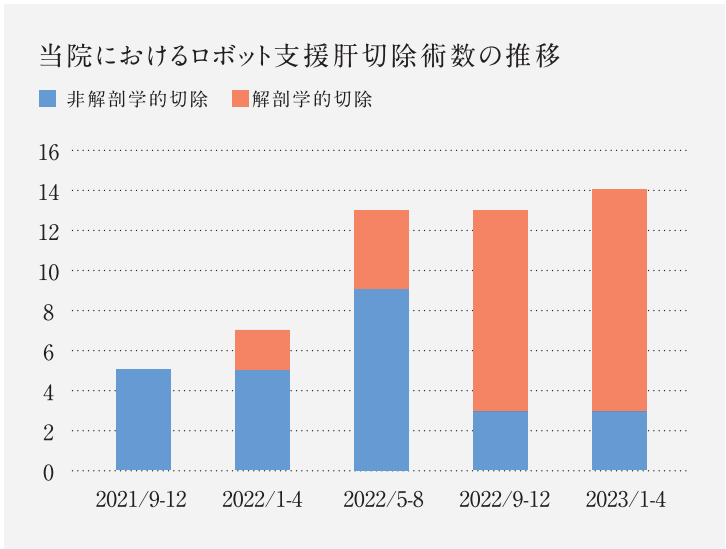
ロボット肝S3垂区域切除の症例

手術時間4時間の症例ですが、術後1日目から飲水再開・離床を開始、2日目には食事再開、ドレーン抜去は3日目に行い、5日目から退院準備、7日目で退院となりました。ラパ肝同様に体にやさしい手術で、早期退院・早期社会復帰を実現することが可能です。



難易度の高い解剖学的切除

肝切除を大きく分けると、門脈や肝静脈の走行に従って「肝の解剖学的単位」を切除する系統的切除（解剖学的切除）と、そうでない非系統的切除（非解剖学的切除）に分類され、2022年後半からのロボ肝では難易度の高い解剖学的切除が8割近くを占めています。



出血の多い肝切除術の
安全性・完治性を極める。



私 好奇心旺盛なの。

そう笑顔で話してくれたのは、当院で2度のロボット支援下内視鏡手術を行った大鍛治さん。1度目の手術の説明の際、藤川先生からロボット手術になると伝えられ、「えっ！ロボットが手術ってどういうこと？」と驚いたという。ただ、先生の自信に溢れた表情を見ると、不安な気持ちは吹き飛んだ。そして先生への信頼とともにロボット手術への好奇心が不安に勝ったのだという。

「うちは8人と犬1匹家族の大家族の犬所帯。洗濯は毎日3回。孫も4人いるから、荷物もたくさん。今はみんな学校に行っていて静かだけど、帰ってきたら賑やかになるのよ。以前病気をして、大きな手術をしたの。それまでは夫婦で静かな毎日を過ごしていたんだけど、娘婿と一緒に住みましようと言ってくれた。それからは賑やかな毎日。性分なのね。色々気になって家のことをやってしまうの。」

そういうご自宅は、庭も綺麗に手入れがされていて、家の中もとても居心地が良かった。

11年前、病気を見つけてくれたのは小倉南区にある沖田クリニックの沖田先生。すぐに当院に紹介状を書いてもらい、手術になった。それから肝臓がんが見つかったのが2年前。疲れやすいと感じてはいたが、日々の家事のせいと思っていた。1回目は腹腔鏡下での手術だった。昨年再発が見つかり、初めてのロボット手術。さらに今年1cmの腫瘍が見つかり2度目のロボット手術を行うこととなった。入院期間はわずか8日間。今は薬の服用もない。友人とランチに行くなど、日常生活を楽しんでいる。次の診察は4ヶ月後。

「主治医の松岡先生に私のこと見捨てないでねって言っているの。笑」
そう笑いながら、次は友人との温泉旅行を計画しているという彼女の表情は、家族や周りの人たちを笑顔にする力が溢れている。



北九州市八幡西区在住
大鍛治 奈保美さん





ただひたすら

肝胆膵領域のがん（肝臓がん・膵臓がん・胆道がん・消化器がん（胃がん・大腸がん）の外科治療、一般外科領域（胆石症・ヘルニアなど）の手術を中心に日々の診療に従事しています。

特にがんの外科治療では、難易度の高い肝臓がん・膵臓がん・胆道がんの外科手術を得意分野としており、同疾患の手術症例数も年間60例を超え、外科治療の地域中核病院として地域医療の一翼を担っています。

また、消化器がんだけでなく肝胆膵領域のがんについても病気の状況に応じ低侵襲な腹腔鏡手術（腹腔鏡補助下肝切除、腹腔鏡下膵体尾部切除など）も手掛けています。

当院では重症の心臓疾患・脳血管障害等を有し他施設では治療が困難ながん患者さんの外科治療も積極的に相談に乗るようにしています。患者さんひとりひとりの病状にあった最善の治療方法をわかりやすく説明いたします。

「仏心鬼手」、「やさしい心」を強く持ちつつ日々の手術に臨んでいます。



外科部長
藤 川 貴 久
Takahisa Fujikawa

日本外科学会 指導医 専門医 認定医
日本消化器外科学会 指導医 専門医
消化器がん外科治療認定医
日本肝胆膵外科学会 高度技能指導医 評議員
日本内視鏡外科学会 技術認定医
日本臨床腫瘍学会 指導医 がん薬物療法専門医

日本癌治療認定医機構 暫定教育医 認定医
臨床研修指導医
アメリカ外科学会正会員(F.A.C.S.)
ロボット手術（ダビンチ）術者資格取得医
ロボット支援肝切除術（肝亜区域切除以上）プロクター認定
医学博士

ご挨拶

ポストコロナ時代の高度・急性期医療でひとと社会に貢献する病院

新幹線のホームから見える小倉記念病院が浅野に新築移転してからあっという間に10年余りが過ぎました。ここ数年、医療界のみならず社会全体はコロナ一色となり、何事も自粛を旨とする活気のない空気が広がりました。しかし、いつまでも負けてはいられません。人々は当たり前の生活と健康を取り戻し、世界の分断や地球の温暖化といった人類全体の新たな敵と戦わなくてはなりません。そんなポストコロナに向かう時に、私は小倉記念病院のかじ取りを任されました。心臓外科医である私にとって、小倉記念病院は恩師である伴敏彦名誉院長・京都大学名誉教授も活躍された憧れの病院であり、その運営を主宰するという大任に身が震える思いです。しかし、病院には築き上げられた歴史と伝統、努力を重ねた有能な職員があり、地域医療を担う連携病院との固い絆があります。その流れに乗って、これまで同様着実に小倉記念病院ならではの高度・急性期医療を展開し、皆様の期待に沿えるよう職員一同努力いたします。そのことで当院の理念である「患者・地域の幸せにつながる職員の幸せ」を実現していきます。

小倉記念病院 院長 腰地 孝昭

